

町史のひとこま

(第十回)

郡名「粕屋」について

粕屋郡の郷名

粕屋郡の歴史は古い。なぜそう呼ばれたかはわからないが、「粕屋」の名も相当に古いものだ。筑前国には、かつて十五の郡があったが「糟屋郡」もその一つ。平安時代の半ば、延喜五年(九〇五)に編集に着手した延喜式にも明記されている。ほぼ同時代の承平年間(九三一〜七)に成立した和名抄は、

籩縣と檀日宮

日本で最初の百科辞典で、そのころ粕屋郡にあった九つの郷名をあげている。
香椎郷・志珂郷・厨戸郷・大村郷・池田郷・阿曇郷・杵原郷・勢門郷・敷梨郷

このうち香椎が今の香椎、志珂が志賀、杵原が旧久原村

(現久山町)であろうことは容易に想像がつく。勢門郷は迫門河内と称された十カ村(現篠栗町。若杉がもとの勢門村)のこ

とかなと思うが、他の地をあてる人もいる。阿曇は本来が海人族の名で、志賀海神社の宮司が阿曇氏であり、これも志賀島であろうと考えられている。池田郷は香椎に近い唐の原付近だといふ。残る三つがどこにあたるかは不明。須恵町を含む南粕屋一帯が九つの郷のどれに属していたかも今は知ることができない。

粕屋郡はさらに古い時代には「籩縣」と呼ばれたことがあったかもしれない。日本書紀に、仲哀天皇が「籩縣に到り、因つていて檀日宮に居す」と書かれているからだ。檀日宮は今の香椎宮のことなので、粕屋郡を籩縣と呼んでいたことがわかる。

籩縣は那珂川流域の平野部をさすのが普通で、博多が昔は、「那の天津」と呼ばれたこともよく知られている。籩縣は粕屋

郡まで広がっていたとも考えられる。志賀島で見つかった金印(国宝、福岡市美術館で展示)に、「漢の委の奴の国王」(読み方は諸説ある)と彫られているが粕屋郡も「奴の国王」の支配地だったのだろうか。

和名抄や延喜式の時代には、「金印出土の地」志賀島は粕屋郡に属していた。それが江戸時代には那珂郡の一部となり、明治十三年に再び粕屋郡に属するようになる。

最古の梵鐘

大宰府観世音寺の梵鐘も国宝で有名なものだが、実は妙心寺鐘と「姉妹」の鐘、つまり同じ類型による製作である。いずれも粕屋郡で鑄造され、妙心寺鐘はいつの時代にか京都へ運ばれたものらしい。

さて、妙心寺鐘に刻まれた銘は次の二十二文字だ。
戊戌年四月十三日壬寅收糟屋評造春米連廣國鑄鐘

この戊戌年は文武天皇二年(六九八)のことである。また「評」は大宝律令(七〇一年)以前に用いられた文字で、「こおり」と読み、のちの郡と同じ意味である。粕屋郡長の地位にあって

た「つきしねのむらじひろくに」(12)

● 粕屋郡名称の一覧表

番号	資料の成立年	粕屋郡の語句	資料名
①	六九八年	「糟屋評」	妙心寺鐘銘
②	七一三年(和銅6)	「糟屋郡神功皇后九年」	筑前風土記
③	七二一年(養老4)	「籩縣仲哀天皇八年」	日本書紀
④	七五九年(天平宝字3)	「糟屋屯倉」継体天皇二十二年	〃
⑤	九一七年(延長5)	「洋屋郡神龜年中」	万葉集
⑥	九二一年(承平年間)	「糟屋郡、加須也」	延喜式
⑦	九三一年(承平年間)	「糟屋郡、加須也」	和名抄